

タマシダ（玉羊歯） ツルシダ科タマシダ属（別名ネフロレピエ）

最初に行った「俊徳古墳」の斜面全体に覆うように群生していた、めずらしいシダです、葉が美しいので観賞用にされている、今回、他の場所では観ることがなかったので、誰かが此処に捨てたものが繁殖したとおもわれる。

名前の由来=根茎に直径1. 5〜2cmの根塊を作るので。**花言葉**=魅惑、愛嬌

タマシダは熱帯から亜熱帯が原産のシダ植物です。根茎から真っ直ぐに立つように葉の束が生える、根元から細い匍匐茎を延ばして新しい芽を付けながら広がる。根塊を幾つも付け中に水を貯えるので乾燥に強い日本の分布は伊豆半島以西、



ソシンロウバイ（素心蠟梅）ロウバイ科ロウバイ属

名前の由来=ソシンとは、混ざり気のない素直という意味で、「ロウ」は花卉が蠟細工ようである所から「バイ」は梅と同じ頃に花が咲き香りも似ているし、花全体も梅に似ている所から、（梅と言う漢字が使われるが、梅とはまったく別の種類です）ロウバイの代表的な品種に満月蠟梅がる、違いは花卉の中心部分に赤褐色の丸い輪があるので見分ける、後、実生蠟梅があるが見分けは出来ない、ソシンに似ている、中国原産の落葉低木、花の特徴は少し薄い黄色、と言うか、淡い黄色と言う感じ、少しうつむき加減に咲く、けなげな咲き方に魅力を感じます。**花言葉**=慈愛、優しい心、愛情、 :花期=12〜2月



・銀丸葉ユーカリ（フトモモ科ユーカリ属

・ハートリーフユーカリ

八尾は花木の生産地ですので、各種の花木があつたが、特にユーカリの銀色の葉色が目をひいた、右の写真のどちらかだと思います、ユーカリは世界に約700種類、亜種や変種を含めると1000種類以上あると言われる。

コアラの食べるユーカリは約14種類で細葉系で、代表的な種名は、デレチコルニチ、カマルドレンシス、ロブスター、ブシクタータ、その日の気分で変わることも、主に新芽を好む、子供は親の食べる葉の匂いで覚える、自生地はオーストラリア、タスマニア島で70〜100mになる高木もある。ユーカリを大きく分けると「丸葉」「細葉」「糸葉」になり、丸葉には卵型、楕円型、ハート型等含まれ、他の植物にはあまり見られない。**名前の由来**=ギリシャ語の「良いeu」「覆つた[calyptos]」が語源です、蕾の罅（葉が変化したもの）と花卉がくつついて蓋で覆われているようである事から、或いは、乾燥した土地を覆う様に育つことからの由来。薬効もあり、オーストラリアの原住民は昔から葉を薬として使っていた。葉を搗り潰し、熱等を掛けて作られた液は、傷の消毒、カユミ止め、喉の腫れ、咳、発熱の治療に使われている。別の種類の葉から抽出される精油はアロマオイルとして流通している、又、喉の炎症やリウマチに効果があるもの、虫よけや消毒作用として注目を集めているもの、葉を揉んで香りを吸い込むと風邪に効く、充満させればマラリアの予防になる等の多くの薬効がある。薬効がある一方毒性もある、青酸配糖体という成分を含んでおり、外用する場合は問題ないが、誤飲すると喘息の悪化、食当たりを起こす可能性がある。***花言葉**=再生、新生、想い出、等々、花言葉の再生の意味は、自生地のオーストラリアでは山火事が頻繁にある、そんな災害に逢ってもユーカリは発芽して成長して森を再生してくれるから。



銀丸葉ユーカリ

ハートリーフユーカリ

ニホンスイセン（日本水仙）ヒガンバナ科スイセン属

名前の由来=中国での呼び名「水仙」を音読みしたもの、中国で名付けられた漢名「水仙」は「仙人は、天にあるを天仙、地にあるを地仙、水辺にあるを水仙」という、中国の古典に由来、水辺に育ち、仙人の様に寿命が長く、清らかなと言う意味から名付けられたとされる。スイセンの原産地はスペイン、ポルトガル、で北アフリカ迄の地中海沿岸地域で、日本には古い時代に中国を経由して渡来してきたと思われる。

原種は25〜30種類だが、人気が高いので改良種が多く作られているのでこれらを含めれば1万種類以上ある。多年草で冬から春に白、黄色の花を咲かせるものが多い、花は雌蕊が1本、雄蕊6本、6枚に分かれた花びらと、中心に筒状の花からなる、6枚に分かれた花びらのうち、外側の3枚は萼で、内側の3枚のみが花卉である、この2つを合わせて花被片といい、中心にある筒状の部分は副花冠と言う。「毒性」毎年水仙の葉をニラの葉と間違え中毒症状をおこしている、特に根茎（球根）にシュウ酸カルシウムを多く含み、量を多く摂取すると呼吸困難となり死にいたることも、死にならなくとも、肝臓や腎臓に障害を与える。***花言葉**=自己愛、神秘、うぬぼれ。***花期**=12〜4月

